

## 今日よりも明日、明日よりも明後 日を立派に、強く生きようとした。

### 「殉死」

大正元年九月十三日。

この日は国民が明治天皇に最後のお別れをする御大葬の日です。

日本国中がこの日を深い悲しみの中で迎えました。皇居前から青山葬場へとつづく沿道には、明治天皇に最後のお別れをしようとする数十万の人の波で埋まり、あちらこちらからすすり泣く声が聞えてきます。

夜になると、皇居前広場にはいつせいかかり火がたかれて、いつそう悲しみを誘ひます。

明治天皇の葬列は午後八時の弔砲を合図に出発することになっておりました。



東京の都心、地下鉄千代田線「乃木坂駅」の真上に乃木神社があります。

そして、この弔砲を心静かに待つてゐる夫妻がありました。乃木大将と静子夫人の二人です。

この日、乃木夫妻は二人そろつて身を清めてから、午前八時に「イギリスのコンノート殿下に献上したいから」といつて、記念写真を撮ります。

乃木大将は陸軍大将の正装に、静子夫人は白襟の黒のうしかけ、袴をはいた姿です。

このあと九時に、二人は最後の参内をします。殯宮の明治天皇にお別れを告げ、宮中のあちこちを心おきなく見て歩きました。皇居を離れる乃木大将の横顔には、深い悲しみが満ちておりました。しかし、心はずでに決まつてをり、その表情には「もう、何も思ひ残すことがない」といふ、すがすがしいものさへ感じられました。

午後は、御大葬の拝観に上京してきた多くの来客と過ごしました。

やがて、御大葬の時刻が迫つてくると、人々は葬列にお別れを告げるために、乃木邸を出て行きました。女中も馬丁も葬列のお見送りに行つてしまつたので、赤坂の自邸には二人だけです。

二人は「病氣の理由」で、葬列に参列できないことを伝えておりました。

午後八時、桜田門外の近衛砲兵隊が吊砲を撃ち、つづいて各寺院の鐘がいつせいに鳴り響きました。

このとき、**乃木大将**と静子夫人は立派な殉死をとげました。

**乃木大将**六十四歳、静子夫人五十四歳でした。

ふたりの殉死した部屋には、明治天皇の写真が飾られ、机の上には二人の次のやうな辞世の和歌を記した紙がおいてありました。

うつし世を 神さりましたし 大君の みあとしたひて われはゆくなり

神あかり あかりましぬる 大君の みあととはるかに おろかみまつる

(**乃木大将**)

出でまして かへります日の なしときく けふの御幸に 逢ふそかなしき

(静子夫人)

御大葬につづいて起こつた二人の殉死は、全国民に大変な衝撃を与へました。

と、同時に称賛と否定を取りまぜたいろいろな意見や反応が日本中を駆けめぐりました。

でも、心ある人は**乃木大将**の殉死をじつに自然な最期と環解するやうになりました。

とくに西南戦争の「軍旗喪失」以後の**乃木大将**の終始一貫した歩みを知る人は、心からの理解と同情を示したのです。

軍旗喪失後の**乃木大将**は今日よりも明日、明日よりも明後日を立派に、強く生きようとしたことで、すでにこの世の生死を乗り越えてゐたのです。

そんな**乃木大将**の気持ちをもっともよく理解して下さった明治天皇の御伴をして、あとを追つて死ねたことが一番幸せだつたのではないでせうか…。



軍人の家らしく飾りがなく簡素で合理的な旧乃木邸。

東京都有形文化財。

後日、小学校六年生の意見が新聞で紹介されました。

「**乃木大将**は実に武士である。武士中の武士である。昔より、武士らしき武士はたくさんある。西郷隆盛も武士、大久保利通も武士である。しかし、**乃木大将**はその上の武士であると思ふ」

かうした人たちが、**乃木大将**の葬儀が行はれた九月十八日、全国からお別れにやってきました。

その中には、日露戦争で傷ついた兵士の姿もたくさんありました。少しでも動ける傷病兵はつえをつきながら、**乃木大将**の葬列を見送つたのです。

そして、乃木院長からやさしい教へを受けてゐた学習院の生徒達も……。

青山の墓地に、乃木大将の埋葬が終つた夜の十時になつても、誰一人家路を急ぐものはありませんでした。


／／ ／／ ／／／ ／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／／

最近、「乃木神社」に参拝した折に、この本に出会いました。なんでも「乃木將軍絵物語」を御祭神八十年祭にあたり一冊にまとめ、装いを新たに復刻したものだそうです。



見た目は絵本のようなイメージですが、  
内容は素晴らしいです。

乃木希典陸軍大将を理解するには最適の一冊として勧められました。イラストをふんだんに取り入れた判りやすい構成は素晴らしいと思い、その一部を紹介しました。初穂料は1500円です。文は中央乃木會、監修は小堀桂一郎氏です。

カテゴリ: 政治も フォルダ: 指定なし   

コメント(3)

タグ: 乃木希典 乃木神社 いのち燃ゆ 殉死 明治天皇 乃木將軍絵物語 御祭神八十年祭 小堀桂一郎

コメント(3)

コメントを書く場合はログインしてください。



Commented by **花うさぎ** さん  
・新刊紹介 世界に愛された日本

2009/04/05 01:03

西村幸祐さん責任編集の「激論ムック」最新号が4月2日に発売されました。その内容を紹介したのがこの映像です。

<http://www.youtube.com/watch?v=hstxXQFWcEU>

田母神閣下と川口ユディさん、小林よしのりと西村幸祐さんの対談も収録されているとのこと。

「博士の独り言」さんでも紹介されていましたね、是非ご覧ください。

Commented by **しゃちよう** さん

2009/04/05 20:41



花うさぎさん、昨日は野暮用で靖国神社に行けず、今日行って来ました。

2009/04/05 21:03

本当に人が溢れていて…。

桜も綺麗に咲いていて、そんな中、北からミサイルが…でも春の麗らかな一日を過ごしました。

良いのでしょうか？



Commented by **花うさぎさん**

To しやちようさん こんばんは。

>花うさぎさん、昨日は野暮用で靖国神社に行けず、今日行って来ました。

私も行ってましたよ(^^)。

>良いのでしょうか？

日本人が「桜を愛でる」ことを止めては絶対にいけません。ミサイルが飛んできて平然と「花見」を楽しみましょう。

我々は政府の対応を信じ、自衛隊の活動に感謝し支持すれば良いのです。